



発行 膳所まちづくり委員会
編集 膳所市民ニュース暫定編集委員会
(膳所市民センター内 ☎077-524-2205)

膳所交番廃止 「計画を凍結」の 願い届かず

滋賀県警察本部から膳所市民センター横の膳所交番を廃止して、JR膳所駅前に新築する膳所駅前交番に統合するという話があったのは一昨年12月です。膳所まちづくり委員会、膳所学区自治連、膳所プリングアップでは、すぐに住民集会を開催し警察から説明を受けるとともに、計画の白紙撤回を求め、警察本部に要望書を提出、市や議会関係者への陳情もいたしました。警察本部とはその後たびたび協議の場を持ちましたが、統合廃止の方針は変わらず、本年2月の協議において、警察本部より「3月末で膳所交番を廃止し、1年間は現在の交番を連絡所として設置する」との最終回答がありました。



JR膳所駅前に統合

廃止統合は、膳所地域での犯罪件数や交通事故の件数がピーク時の63%近くまで減少していることに加えて、膳所交番が耐震基準に達していないこと、テロ対策やコンピューター犯罪などが増大する中で、限られた数の警察官でより効果的に交番機能を高めることが目的であると説明されてきました。しかし、耐震基準に達していなければ耐震補強すればよいことで、交番機能を高めるといっても6人の膳所駅前交番と4人の膳所交番を足して10人の体制にするだけでは体制強化とは言えないと反論しました。そもそもなぜ膳所交番だけが廃止になるのか、大津市全体でどのように考えているのか、県議会では議論されて

いないのかなどを数々の質問を行いました。納得できるような回答はいただけませんでした。この間、事例調査として日野町の関係者を訪ねたほか、10月には、自治連合会でのレポートを発行し各戸配布いたしました。

より多くの共感を得るため報道関係者への取材資料配布も行ってきましたが、計画の白紙や凍結という結果にはつながりませんでした。



新膳所駅前交番(5月29日開設)

1年間は連絡所に

すでに膳所交番は廃止されていますが、廃止を反対してきたのは、交番が膳所町の時代から役場のすぐ横(現在の膳所神社前)にあり、長い間膳所交番は膳所の住民にとって身近で頼りになる存在であったこと。なくなれば犯罪や交通事故が増えるのではないかと不安。それを解消するだけの提案が警察からなされてこなかったことです。

警察は、交番廃止後も1年間は連絡所として運用するとしています。協議の中で示された体制強化がパトロールの回数増となってくるのか、交番廃止によって犯罪や事故が増えないのか、今は見守るだけです。なお新しい膳所駅前交番の電話番号は077 521 1020です。

交番廃止後

交番廃止によるいくつかの問題の中でも特に心配なのが、子どもたちの交通事故と高齢者に対する犯罪や事件事故です。

平成25年近江大橋の無料化以降、混雑する国道1号や湖岸道路を避けて膳所の狭い道路を通り抜ける車が急増しました。しかも時間帯は朝夕の通学通園時間帯が多く、子どもたちにとってはとても危険な時間帯になっています。一方高齢者にはオレオレ詐欺や悪質商法の被害が増えています。子どもと高齢者の安全の見守りに大きな役割を担っていただいている膳所の団体に交番廃止以後の問題をお聞きしました。



交番がなくなってもそういった連携が維持できるのか心配。私たちは子どもたちの元気な姿をいきがいに活動を進めてきた。そういった私たちの気持ちを警察は交番廃止以後も汲み取り、活動をバックアップしてほしい」と要望されます。夏休みや冬休みの夜間などに見守りを続けているのは、膳所プリングアップです。本部長の堀池清典さんは「膳所で事故や犯罪が減少しているのは、ひまわり隊や補導委員、愛のパトロールなどの活動が大きく貢献している。地域ががんばったせいで交番がなくなったと思われるなら、とても残念。愛のパトロールには、膳所駅前に統合されても是非参加していただきたい」とのことです。

子どもたちを見守る

通学通園の子どもたちを見守る活動を続けていただいているのが、今年15周年を迎える「ひまわり隊」です。隊員は現在35名、胸には子どもたちから贈られた「ひまわり」が飾られています。子どもたちを交通事故や不審者から守るだけでなく、子どもたちに声をかけ交流をはかるのも大切な活動です。

交番廃止の問題について、代表の脇明さんは「空き交番をなくすようお願いしてきたのに、交番をなくすなんて本末転倒。交通事故が減っているというが、私たちの日々の努力も含めた地域との連携の成果だと思う。

おとしよりを孤独にしない

地域福祉の担い手である膳所学区社会福祉協議会では、各自治会単位でのふれあいサロンへの助成、ふれあい弁当の配食などを通じて高齢者が地域の交流活動に積極的に参加できる環境づくりを進めています。

会長の吉村哲さんは「おとしよりを取り巻く環境は家族構成の変化とも相まってとても厳しくなっている。特に単身の高齢者の方々は経済的にも肉体的な面でも不安が多いから、交番がなくなるのは残念。一方で高齢者自身が様々な理由から自治会にお入りにならないケースも増えており、私たちが進めている活動に参加していただけないのが大きな課題」と自治会加入率の低下を心配されます。

高齢者と接点を持っているのが民生委員児童委員の皆さんです。現在膳所には34名の委員が活動しておられますが、いわば地域で選ばれた地域の「つなぎ役」です。困っておられる方と市役所や包括支援センターなどをつなぎ地域福祉を支える役目があります。しかしひとりが受け持つ世帯は、多い人では600件にもなりますから、その家々の事情を把握し、了解を得て台帳に記載するだけでも大変な負担になっています。ご自身も東網町でふれあいサロンの活動を運営しておられる民生委員児童委員協議会会長の齋賀治通さんは「交番がなくなるのは困る。これまではなにかあったら市民センター横の膳所交番へと



東網町ふれあいサロン

